

---

2023年度  
第54回「博報賞」受賞者一覧

---

主催 公益財團法人 **博報堂教育財団**  
後援 文部科学省

# 受賞者一覧

(※敬称略・都道府県順)

## 【博報賞・文部科学大臣賞】

石川県	金沢市立長田中学校 ながた
岡山県	笠岡市立神内小学校 こううち
愛媛県	西条市立西条小学校 さいじょう さいじょう

## 【博報賞】

千葉県	NPO法人 多文化フリースクールちば
石川県	能登町立小木小学校 おぎ
長野県	伊那市立伊那西小学校
愛知県	一般社団法人 ハッピートークアカデミー協会
大阪府	特定非営利活動法人 手話言語獲得習得支援研究機構 (NPOこめっこ)
大阪府	東海大学付属 大阪仰星高等学校中等部
兵庫県	雲雀丘学園小学校 ひばりがおか
愛媛県	新居浜市立別子中学校 にいはま べっし
高知県	久重naturalチーム きゅうじゅう

## 【功労賞】

新潟県	特定非営利活動法人 五泉トゲソの会
静岡県	生田 佳澄 (沼津市立開北小学校 教諭) いくた かすみ かいほく
滋賀県	平田 輝子 (豊郷小学校 非常勤講師) てるこ とよさと
広島県	樋口 正美 (広島県立広島中央特別支援学校 指導教諭)
山口県	下関市立夢が丘中学校
佐賀県	若楠校区 地域子ども教室 「わかくす全員集合!!」

## 【奨励賞】

神奈川県	土居 正博 (川崎市立はるひ野小学校 教諭)
新潟県	佐渡市立新穂中学校 にいほ
富山県	朝日町保小中一貫教育校 あさひまち ほしょうちゅう
長野県	特定非営利活動法人 中信多文化共生ネットワーク ちゆうしん
静岡県	松本 恭子 (吉田町立吉田中学校 教諭)
愛知県	豊田市立平井小学校
岡山県	朝川 真行 あさかわ まさゆき (岡山中学校・岡山高等学校 学年主任)
鹿児島県	中野 八伯 はつのり (鹿児島大学教育学部 技術専門職員)
石川県	福田 晃 (金沢大学附属小学校 教諭) こう ※コロナ禍における活動

※活動内容につきましては、当財団ホームページに掲載いたします。「博報賞 最新の受賞者」ページにてご確認ください。

## 【博報賞・文部科学大臣賞】受賞数 3件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<b>金沢市立長田中学校</b> (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	石川県 金沢市	<p>学校創設以来75年以上にわたって、演劇発表会に取り組み続け、祖父母や両親の世代からの伝統が現在の生徒たちに継承されている点で、非常に価値ある伝統となっている。特に、学習の基盤となる言語能力やコミュニケーション能力を育成しながら、探究的な学習を継続させていく指導計画が高く評価された。近年では、演劇教育の価値が世界中で再評価されており、長田中学校の試みは古くて新しい全人教育の取り組みとして評価に値する。学校の人手不足や多忙化が進む中でも、この素晴らしい伝統が発展していくことを期待したい。</p>
<b>笠岡市立神内小学校</b> (日本文化・ふるさと共創教育)	岡山県 笠岡市	<p>学年に応じ、活動範囲を徐々に広げていく年間指導計画に加え、子どもたちの思いや考えを取り入れ、柔軟に活動を展開している。朝の時間帯で思考ツールやICT機器の活用を学び、思考の深まりが実現している。主体的に学ぶ意欲、伝え合う態度、思いや願いを実現する実行力などの数値が高まり、「自分たちの住んでいる神島が好き」のポイントは非常に高い。子どもたちが地域で活動し発信をすることにより、地域の活力にもつながっており、地に足の着いた実践として他の地域でも参考にできる取り組みである。</p>
<b>西条市立西条小学校</b> (日本語教育)	愛媛県 西条市	<p>小学校内に設置された教室という特性を活かし、子どもたち一人ひとりの実態に即した学習を展開することで、子どもたちの前向きな姿勢を引き出すとともに、学校全体の「温かな仲間づくり」につながっている点が高く評価できる。実践の成果と課題も丁寧に分析・記録されており、参考になる。</p> <p>日本語を母語としない子どもたちが全国で学ぶようになっている現在、小規模ながら一から教室を立ち上げ、地域との連携の輪を広げている西条小学校の取り組みは、同じような状況にある地域・学校多くの示唆を得られるものとなっている。</p>

## 【博報賞】受賞数 9件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<b>NPO法人 多文化フリースクールちば</b> (国際文化・多文化共生教育)	千葉県 四街道市	<p>学齢超過で行き場のない、外国につながる子どもたちに学びの場や居場所を提供し、設立以来、高校進学を希望するほぼ全員を合格に導き、卒業を可能とする学びの土台を構築している点が高く評価される。また、この活動を支えるスタッフの献身的な寄り添いに敬意を表したい。</p> <p>スクールの卒業生による活動への主体的関わりや学校文書の少数言語への翻訳は意義が大きい。さらに、地域の大学との連携による大学生の参画は、地域で活動を支える動きをつくり出しており、こうした連携はフリースクールの先駆的モデルになると期待される。</p>
<b>能登町立小木小学校</b> (日本文化・ふるさと共創教育)	石川県 鳳珠郡 能登町	<p>海に親しむことから学年を追って次第に学びへとして深まりのある単元学習を設定している。小学生から身近なふるさとの里海を教材にして、全体計画や年間指導計画を示している。また、総合的な学習の時間や生活科との連携を十分に教育課程の編成において練っている。すべての学年において、里海との関わりが工夫されている。「水生植物の受粉」や「イカ料理」など他校でも参考となる教材の活用や指導方法の工夫は指導者の興味を引くだろう。SDGsやICTの活用など今日的な課題にも十分なつながりができる。</p>
<b>伊那市立伊那西小学校</b> (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	長野県 伊那市	<p>学校敷地内にある学校林における本物の自然体験を通して、疑問や課題を見つけて、主体的な学びの場とする活動を72年以上も実施している。子どもが学校林で活動したことで感じたり考えたりしたことを活かし、新たな問い合わせや活動が生まれるような一連の学びを計画・実施していることや、過疎地域における学校が、教育移住者によって活性化した点を評価した。学校の特色を活かした教育課程の編成は他の学校に広がることを期待できる。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<b>一般社団法人 ハッピートークアカデミー協会</b> (国語教育)	愛知県 名古屋市	<p>学校内外での国語教育を推進する試みとして高く評価することのできる実践である。協会の構築したプログラムは、「出前授業」「ハッピートーク朝礼」「ハピネスMAP」等で構成され、子どものことば認識を育てながら、子どものことばを引き出す効果をもつ。特にコロナ禍の中で、子どもが生きるよがとなることばと、それによるつながりをつくる試みとして、多くの学校に受け入れられている。米国の学校にはことばの教え・学びを支えるリテラシー・コーチがいるが、協会のトレーナーは、学校にとってリテラシー・コーチに近い大切な働きをもっている。</p>
<b>特定非営利活動法人 手話言語獲得習得支援研究機構 (NP0こめっこ)</b> (特別支援教育)	大阪府 大阪市	<p>国連の「障害者の権利に関する条約」で「手話は言語」と定義されている。聞こえない子どもの乳幼児期から、日本手話があふれる環境を用意し、絵本読み、手話劇、身体運動等により、遊びながら言語としての日本手話を獲得する機会を、専門的見地を踏まえて提供している。子どもを育てる保護者の手話習得にも努めるとともに、保護者が前向きに生きることができる仕組みをつくり上げている。コロナ禍の「こめっこ動画配信」は、親子の手話獲得効果があり、新たな展開が期待できる。聞こえない子どもの確実な自立に向けた貴重な教育活動である。</p>
<b>東海大学付属 大阪仰星高等学校中等部</b> (日本文化・ふるさと共創教育)	大阪府 枚方市	<p>中学生が地域発展プロジェクトに参加し、データのみならず自分たちの足で歩いて苦労しながら「仮説」を考えているところに、地域の問題を自分の事として考える力をつけるポイントがある。市民の前でプレゼンテーションをすることも含めて、シティイズンシップ教育の基礎が培われていると評価できる。発信を繰り返すことで自己有用感を育み、他教科の学びにも波及し、中等部での学習経験が高等学校での基礎探究等での活躍につながっている。学校としての独自な取り組みは、国立公立私立を問わず他校の参考になる。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<b>ひばりがおか 雲雀丘学園小学校</b> (日本文化・ふるさと共創教育)	兵庫県 宝塚市	<p>各学年の年間指導計画が綿密に作成されている。定期的に「ひばりの里」を教材とした学習や活動が実施されていることがよく伝わってきた。兄弟学級による活動で、児童同士の交流も活性化し、主体的に環境保全に関わろうとする態度も育成されている。この里を管理する人の努力や親の惜しみない協力などが一体化して、他教科と連携するなど多様な学びを展開できる環境が整備されていることがわかる。今後も継続した取り組みによって、都市で学ぶ子どもたちにも心のふるさとが築かれていくことを期待している。</p>
<b>にいはま　べっし 新居浜市立別子中学校</b> (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	愛媛県 新居浜市	<p>応募書類の一つひとつの文章から、生徒の学習を支援しようとする先生方の教育思想の深さと確かさが伝わってきた。特に①手段が目的化しないように注意し、何のための活動かを常に意識していた点、②社会とのつながりは、子どもの自己決定から始まる、という考え方のもと、子どもの「やりたい」を大事にしようとしている点、③したがって多数決主義はとらず、すべての生徒が納得する合意形成が目指される点、④教師は子どもの「学びの伴走者」と位置づけ、教師同士でファシリテートを学び続けた点、などが高く評価された。</p>
<b>きゅうじゅう 久重naturalチーム</b> (日本文化・ふるさと共創教育)	高知県 高知市	<p>自然の中で暮らしていくても普段は気づかない里山のよさに、子どもたちは地域の大人によって目を向けられるようになった。里山の豊かさにふれるプログラムの積み重ねによって、子どもたちは次第に自分たちで未来のまちづくりについて考えていくようになり、子どもの部会を立ち上げるまでに至っている。大人もふるさとの活性化に向けて真剣に子どもたちの声に耳を傾け、共に考える仕組みが効果をあげている。小さな集落でも、大人が子どもたちの声を聞く姿勢をもてば、自己表現や内容の質の高さにつながるよい事例である。</p>

## 【功労賞】受賞数 6件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<b>特定非営利活動法人 五泉トゲソの会</b> (日本文化・ふるさと共創教育)	新潟県 五泉市	<p>23年間の活動が成果を上げ、子どもたちに向けた教育が地域の大人に浸透し、希少種を保全し、環境を守る意識につながっている。湧水を特色とする地域ならではの活動であり、子どもたちにふるさとへの意識を育んでいる。また、同じ希少種を有する他地域との交流も行われ、学び合いが実現している。未来の地域に生きる子どもたちを育てる活動として大変重要な活動であり、長年の蓄積に対して功労賞を贈る。</p>
<b>生田 佳澄</b> <small>(かいはく)</small> (沼津市立開北小学校 教諭) (国際文化・多文化共生教育)	静岡県 沼津市	<p>受賞者の実践や教材が、自校だけではなく、沼津市内の複数の学校で共有され、さらに「特別の教育課程」としてグランドデザインに位置づけられている点は、今後、多くの自治体へのモデルとなるべき姿であろう。また、子どもたちの学習の成果が積極的かつ有機的に地域へ発信されている。ここから、幅広い領域の多くの方々が受賞者たちの実践に関心を抱き、地域全体で子どもたちを育てるという意識につながることが期待される。四半世紀にわたる、きめ細かな実践の継続は功労賞にふさわしいと言えよう。</p>
<b>平田 輝子</b> <small>(とよさと)</small> (豊郷小学校 非常勤講師) (国際文化・多文化共生教育)	滋賀県 犬上郡 豊郷町	<p>日本語習得を支援しつつも、母語も忘れずに大切にした実践が継続的に実施されており、これは、日本での適応だけではなく、子どもたちの自身のルーツへの誇りにつながっており、高く評価できる。また、子どもたちが習得した日本語を、日本の学校の中で活用する場を積極的に提供している点や、逆に日本の子どもたちに知ってほしい外国語に着目し紹介している点は、大変興味深い。外国にルーツをもつ子どもたちと日本の子どもたちとの自然な相互理解につながることが期待される。</p> <p>27年間の丁寧かつ献身的なこれらの取り組みは功労賞に値する。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<b>樋口 正美</b> (広島県立広島中央特別支援学校 指導教諭) (特別支援教育)	広島県 広島市	<p>見えにくい、見えない子どもの思いや主体的な学びを重視した教育活動を、初任時から36年間継続して取り組んできた。視覚障がいのある子ども自らが、可能な限りの五感を活用し身体を動かす体験活動は、子どもの学ぶ意欲と笑顔につながっている。</p> <p>指導教諭となってからは、積極的に模範授業を行うとともに教員グループによる授業研究体制の構築に努め、その成果は「研究部通信」として、ホームページで継続的に情報発信している。県内外での講演・研修会講師を務めるなど、全国の視覚障害教育の専門性の向上にも寄与してきた点も評価に値する。</p>
<b>下関市立夢が丘中学校</b> (日本文化・ふるさと共創教育)	山口県 下関市	<p>18年間にわたって中学生が自分たちは地域のために何ができるかを考えながら発展させてきた活動である。自分が育ったふるさとのよさをよく知ることで、誇りに思い、そこで奉仕活動をすることで自己有用感を高めるというよいサイクルにつながっている。「ボランティア通帳」への記述とめあての振り返りで、積極的な取り組みも増えている。多様なボランティアへの取り組みにより、生徒のコミュニケーション力が増し、職場体験で評価が高まったり後輩へのアドバイスが丁寧になったりするなど波及的な効果も生まれている。</p>
<small>わかくす</small> <b>若楠校区 地域子ども教室</b> <b>「わかくす全員集合！！」</b> (日本文化・ふるさと共創教育)	佐賀県 佐賀市	<p>学校と家庭以外に子どもたちに第三の居場所を設け、さまざまな体験活動を提供し、大変充実した取り組みである。メニュー数、その内容も年を追うごとに工夫され深化したものになっている。学校教育と社会教育が共に場を提供することで、大学生も含め、年齢層が多様な人々がみんなで子どもの健全育成に関わろうという姿勢がみられる。平成16年以来の息の長い取り組みが、コロナ禍を経ても途絶えず、功労賞に値する活動である。</p>

## 【奨励賞】受賞数 9件

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<b>土居 正博</b> (川崎市立はるひ野小学校 教諭) (国語教育)	神奈川県 川崎市	<p>児童の日本語能力を育てていくための重要な基本領域である漢字指導の実情から導き出した課題に、果敢かつ熱烈に取り組んだ貴重な教育実践者である。子どもの学習意欲を引き出しながら、学んだ漢字を積極的に「使わせる」ことが豊かな語彙を身につけるということを実証する教育実践を展開してきたことは、特に高く評価することができる。受賞者の実践報告からは、漢字に対する子どもの学習意欲を引き出すいくつもの働きかけの工夫によって、子どもたちが主体的・意欲的に学ぶ姿をみせるようになることを教えられ、励まされる。</p>
<b>佐渡市立新穂中学校</b> <small>にいほ</small> (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)	新潟県 佐渡市	<p>よりよい未来に向けて主体的・協働的に活動に取り組む生徒を目指し、総合的な学習の時間において育成を目指す資質・能力を①課題発見力、②思考力・表現力、③コミュニケーション力、④粘り強さ・創造力とし、学校、保護者、地域で共有しながら実践した。学校内外の多様な人材を活用した授業を通して、地域から積極的に学び、地域に働きかける生徒の変容や、本実践が地域の人々に与えている効果を評価した。</p>
<b>朝日町保小中一貫教育校</b> <small>あさひまち ほしょうちゅう</small> (日本文化・ふるさと共創教育)	富山県 下新川郡 朝日町	<p>保育園と小中が一体化した教育活動に、「ふるさと科」を新設した。ここに、「ふるさと愛」を育もうという目標を明確にした。地域と共にみなで子育てや教育を支援していく地道な教育は、全国と比較して、北陸地方においてふるさとに戻ってくる若者が増加している結果となって表れていると考える。「ふるさと科」の指導計画は「郷土の自然」「文化・産業」「人物・歴史」「施設」等をバランスよく配置したものである。この指導を継続させ、発達段階に応じた指導の軽重を加えた指導の充実を期待するものである。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<b>特定非営利活動法人 中信多文化共生ネットワーク</b> <small>(国際文化・多文化共生教育)</small> <p><b>【活動タイトル】</b> 外国にルーツがある子どもたちの 日本社会での活躍を目指して</p>	長野県 松本市	<p>外国人散在地域において、外国につながる子どものニーズに応じた支援に取り組むため、NPOと教育委員会が密に連携・協働し、支援体制を構築している点が高く評価される。加えて、保護者への丁寧な支援や外国につながる子どもについての理解を一般に広げるための発信にも力を入れている様子がうかがえる。</p> <p>散在地域では支援体制の構築に困難を抱えるところも多い。中信多文化共生ネットワークが教育委員会と連携体制を構築し、それを発展させることができたのはなぜなのか。散在地域における連携モデルの好例として、発信を期待したい。</p>
<b>松本 恭子</b> <small>(吉田町立吉田中学校 教諭) (特別支援教育)</small> <p><b>【活動タイトル】</b> 子どもたちの可能性を信じることから 見えてきた特別支援教育の展望</p>	静岡県 榛原郡 吉田町	<p>教科指導から校内支援、地域支援まで高い教育実践を支える地道な取り組み方を評価したい。松本氏が作成した報告書は、自閉症・情緒障害特別支援学級の国語実践から榛原地区特別支援教育ガイドブック作成まで多岐にわたる。自らの教育実践を丁寧に振り返り、言語化していく研究作業は高い教育実践には不可欠であるが、簡単に取り組めることではない。報告書に添えられた多くの挿絵は自らの気づきを高め、教育実践を関係者で共有し共に取り組んでいくために努力した結果と言える。教育実践家が手本としたい取り組み方である。</p>
<b>豊田市立平井小学校</b> <small>(日本文化・ふるさと共創教育)</small> <p><b>【活動タイトル】</b> 未来を担う子どもたちと一緒に遊んで学ぶ 「ふるさとの川」</p>	愛知県 豊田市	<p>ふるさとの川との関わりをコアにして、自然愛護の視点を大切に、地域や行政と連携しながらしっかりと計画された学習である。子どもたちの生き物に対する興味・関心を基点として、自ずから川の様子に目を向けられる遊びができる。子どもの本性を大切にした「川遊び」の学習は、ふるさとの川という身近な自然を地域の人や保護者と共に育てていく活動へと広がっていく。「岩本川」というふるさとの川が、小学校全体の総合的な学習の時間の教材となることを期待する。</p>

受賞者名(活動領域名)	所在地	審査講評
<p>あさかわ まさゆき  <b>朝川 真行</b>          (岡山中学校・岡山高等学校 学年主任)          (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)</p> <p><b>【活動タイトル】</b>          ロボット開発と小麦栽培研究による          知的好奇心を育むSTEAM教育実践</p>	岡山県 岡山市	<p>一般に、理科の実験は授業時数を使うし、準備にも労力や経費がかかるため、たくさん用意するのはなかなか難しい。ところが朝川教諭は、本物のワクワクに満ちた探究活動を豊富に用意し、総合的な学習の時間に取り組んだ点でユニークである。ホンモノのロボットを作製するというだけで面白そうなのに、自然災害時に被害を最小限に食い止めるためのロボット開発と言われば、誰もが真剣に取り組みたくなるだろう。学習の必然性を的確に組織しつつ、生徒の興味・関心を最大限に刺激する、優れた教育活動である。今後の継続と発展を期待したい。</p>
<p>はつのり  <b>中野 八伯</b>          (鹿児島大学教育学部 技術専門職員)          (日本文化・ふるさと共創教育)</p> <p><b>【活動タイトル】</b>          学校を畑に！！          ～地域の伝統野菜と食文化を          未来へつなぐ活動～</p>	鹿児島県 鹿児島市	<p>鹿児島の伝統野菜を絶えることなく引き継ごうとする危機感から始まったプロジェクトは、学校教育において郷土愛と伝統的な農作物の栽培、そして継承という活動に見事につながっている。栽培や収穫、調理などの他に、メディアを上手に活用した広報活動にも力を入れている。遺伝資源である種や苗によって生きた文化財をつなぐ学習過程もしっかりと設定している。活動開始から日が浅いため、環境教育や食育など多様なテーマとの関連性を図りながら実践を続けてほしいと願っている。</p>
<p>こう  <b>福田 晃</b>          (金沢大学附属小学校 教諭)          (独創性と先駆性を兼ね備えた教育活動)          ※コロナ禍における活動</p> <p><b>【活動タイトル】</b>          子どもたちが切り拓いた新たな国際交流          ～学校を起点につながり、深まる絆～</p>	石川県 金沢市	<p>福田教諭は、コロナ禍における新たな国際交流の実現に向けて、東京オリンピック・パラリンピックで金沢に滞在する予定だったフランスの競泳選手との直接的・間接的な交流を実践した。コロナ禍の社会状況の変化に対応しながら、子どもは自分でできることを考え、行政機関職員などの専門家の知見も活用しながら、課題を設定し解決していく取り組みである点を高く評価した。こうした実践は、未知の状況に対応する資質・能力を育成する実践である。</p>

## 「博報賞」

「博報賞」は、児童教育現場の活性化と支援を目的として、財団創立とともにつくられました。

「ことばの力を育むことで、子どもたちの成長に寄与したい」そんな想いを核として、日々教育現場で尽力されている学校・団体・教育実践者の「波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献」を顕彰しています。

また、その成果の共有、地道な活動の継続と拡大の支援も行っています。

公益財団法人 **博報堂教育財団**

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル14階 TEL(代表):03-6206-6266(平日9:30~17:30)

財団ホームページ:<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/> E-mail:hakuhoushou@hakuhodo.co.jp